

令和5年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3	履修学年・クラス	2ABC
担当者		使用教材	新編論理国語(大修館書店)				
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
	○実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。						
	○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
学習方法	○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
	○常用漢字の字義(部首)理解した上で文中や文章で活用する。語句の量を増やし、語彙を豊かにする。表現の特徴と効果を理解する。						
	○口語文法のみまりを理解し、「書き言葉」「話し言葉」両面で適切に用いることができるようにする。						
	○主観を交えずに話の構成や展開を理解し、客観的な文章分析を心がける。						
	○「具体」「抽象」の何たるかを理解し、併せて「主張」「理由」「具体例」を明確に区別できるようにする。						
学習評価	○資料解釈を含めた「対比」を意識的に捉え、そこから言及しうることにイメージを巡らせる。						
	○自然・社会両科学の側面から見た現代社会の問題点を把握し、自分なりの見解を持てるようにする。						
	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨					
	知	知識・技能(技術)	生涯に亘って社会生活に必要な国語(言語)の知識や技能を習得し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の各領域における実践的な能力を高めている。				
思	思考・判断・表現	論理的に考える力や文脈に応じた判断力、適切かつ効果的な表現力が身につけている。					
態	主体的に取り組む態度	習得したことを「断片的な知識の記憶」に留めず、探究心やコミュニケーション能力、敷衍力にまで高めようとしている。					
※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			知	思	態		
前期 中間	知の登山、知の水路	・「学ぶことについての筆者の考えを読み取り、学習への取り組み方について考える。	○	○	○	【知】接続詞、陳述(呼応)表現 【思・判・表】比喩・具体例・結論の理解 【態】新たな視点の探求・手紙	・授業態度 ・発問評価 ・説明表現 ・指名音読 ・課題提出 ・定期考査
	「論理的な人」とはどういう人か	・「論理」についての筆者の考えをふまえ、思索を深める。	○	○	○	【知】慣用表現・四字熟語 【思・判・表】具体例の比較、文章整理 【態】話題の関連づけと弁別	
	ウサギの耳はなぜ長い?	・具体例の役割を意識して本文を読み、文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	○	○	○	【知】慣用表現の読み方 【思・判・表】具体例の共通点把握による抽象化 【態】得た知識を基に考える力	
	記号のメディアと物理的メディア	・「メディア」の役割を意識して本文を読み、文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	○	○	○	【知】慣用表現 【思・判・表】語彙・文脈理解 【態】「メディア」の実体理解	
	対話の精神	・対比の関係を意識して論理の展開を捉え、構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	○	○	○	【知】慣用表現 【思・判・表】対比の共通点 【態】新たな視点の探求	
前期 末	デジタル地図から見える世界	・「デジタル」の側面を理解する。	○	○	○	【知】陳述(呼応)表現 【思・判・表】地図の音響の対比 【態】「デジタル」の側面の理解	・授業態度 ・発問評価 ・説明表現 ・指名音読 ・課題提出 ・定期考査
	人工の自然—科学技術時代のやまを生きるために—	・筆者の主張と根拠の関係を意識して、文章構成や論理展開から要旨を把握する。	○	○	○	【知】慣用表現の意味把握、漢字の使い分け 【思・判・表】具体例から導かれる主張の把握 【態】現代社会を振り返る視点	
	「考える葦」であり続ける	・筆者の主張と根拠の関係を意識して、文章構成や論理展開から要旨を把握する。	○	○	○	【知】接続詞、語彙の文脈理解 【思・判・表】関連文章との対比 【態】現代社会を見る視点	
	量の時代から質の時代へ	・さまざまな統計資料を本文と関連づけ、データのまとめ方によって主張が変わることを理解、統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。	○	○	○	【知】カタカナ語(外来語)の意味把握 【思・判・表】資料分析と筆者の論理確認 【態】現代社会のミクロな移り変わり把握	
	若者の「海外旅行離れ」は本当か?	・筆者の主張の関係を的確にとらえる。	○	○	○	【知】グラフを説明する用語の把握 【思・判・表】現象となる社会変遷の理解 【態】盲点の確認	
後期 中間	紙の本はなくなる	・異なる立場の文章を読んで考えを深め、対比の役割を意識して論理の展開を捉え、具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。	○	○	○	【知】陳述(呼応)表現 【思・判・表】対比 【態】現代社会の考察	・授業態度 ・発問評価 ・説明表現 ・指名音読 ・課題提出 ・定期考査
	情報化と紙の本のゆくえ	・異なる立場の文章を読んで考えを深め、対比の役割を意識して論理の展開を捉え、具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。	○	○	○	【知】話し言葉の意味把握 【思・判・表】具体例・結論の理解 【態】現代社会を見る視点	
	探求する力	・筆者の問題意識をとらえ、読み取った主張をふまえて、自分の思いや考えを深め、将来について考えを深める。	○	○	○	【知】慣用表現の意味把握 【思・判・表】列挙された例の把握 【態】現代社会を振り返る視点	
	補助円を引きながら考える	・筆者の問題意識をとらえ、読み取った主張をふまえて、自分の思いや考えを深め、将来について考えを深める。	○	○	○	【知】文脈の語の意味把握 【思・判・表】結論が「補助円」活用を通じた視点の変化 【態】生きる視野の拡大	
	和の思想、間の文化	・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味し、論の展開のしかたや具体例の役割について考え、比喩的な表現の意図をとらえる。	○	○	○	【知】古典文化と日本文化の振り返り 【思・判・表】具体例を通じた比較検討 【態】日本文化の再発見	
後期 末	ミロのヴィーナス	・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味し、論の展開のしかたや具体例の役割について考え、比喩的な表現の意図をとらえる。	○	○	○	【知】文脈の語の意味把握、陳述(呼応)表現 【思・判・表】同一内容の多様な表現理解 【態】欠損による新たな可能性の広がり	・授業態度 ・発問評価 ・説明表現 ・指名音読 ・課題提出 ・定期考査
	人類の進化から考える「心」の誕生	・複数の文章を比較・分析して考えを深め、「問題提起と答えの関係」「具体例と主張の関係」「独特の概念や筆者の主張」を的確にとらえ、自分の意見・考えを持つ。	○	○	○	【知】接続詞、二重否定 【思・判・表】具体例を通じた主張の把握 【態】人間としての存在意義の実感	
	ロボットに心はあるか	・複数の文章を比較・分析して考えを深め、「問題提起と答えの関係」「具体例と主張の関係」「独特の概念や筆者の主張」を的確にとらえ、自分の意見・考えを持つ。	○	○	○	【知】接続詞、文脈の語彙の把握 【思・判・表】ロボットの実体と人間らしさの有無確認 【態】近未来社会に向けた「心」への心構え	
	クオリアと心	・筆者の主張を踏まえて現代社会についての考えを深め、対比の役割を意識し、発想のしかたや論理の展開に注意して主張を的確に把握する。	○	○	○	【知】慣用表現の意味把握 【思・判・表】一つ一つの例の把握と関連性考察 【態】人間に対する理解	
	政治の本質	・筆者の主張を踏まえて現代社会についての考えを深め、対比の役割を意識し、発想のしかたや論理の展開に注意して主張を的確に把握する。	○	○	○	【知】文脈の語彙の把握 【思・判・表】歴史的背景の確認とそれが裏づける主張の把握 【態】現代社会の問題を説明する論の理解と批判	
後期 末	「である」と「する」と	・筆者の主張を踏まえて現代社会についての考えを深め、対比の役割を意識し、発想のしかたや論理の展開に注意して主張を的確に把握する。	○	○	○	【知】二重否定の正確な理解 【思・判・表】脚注の語を含めた難解語理解 【態】難しい論理に立ち向かう姿勢	・授業態度 ・発問評価 ・説明表現 ・指名音読 ・課題提出 ・定期考査
	人口減少時代の到来	・日本社会や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり深めたりするに当たり、さまざまな資料を参照しながら文章を読み、筆者の考え・主張を捉える。	○	○	○	【知】他教科でも頻出する語の再確認 【思・判・表】歴史的背景の確認とそれが裏づける主張の把握 【態】現代社会の問題を説明する論の理解と批判	
	未来の地図帳	・日本社会や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり深めたりするに当たり、さまざまな資料を参照しながら文章を読み、筆者の考え・主張を捉える。	○	○	○	【知】情報量の多い資料の読み取り 【思・判・表】数値のおよまかな把握と傾向の理解 【態】未来社会への展望	
	エネルギー耕作文明への転換	・日本社会や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり深めたりするに当たり、さまざまな資料を参照しながら文章を読み、筆者の考え・主張を捉える。	○	○	○	【知】脚注を中心とした語彙の把握 【思・判・表】数字の大きさを把握し近未来社会への展望 【態】エネルギー問題への認識	
豊かさとはつながり	・筆者の主張を踏まえて現代社会についての考えを深め、対比の役割を意識し、発想のしかたや論理の展開に注意して主張を的確に把握する。	○	○	○	【知】脚注を中心とした語彙の把握 【思・判・表】対比する視点の把握 【態】「豊かさ」の新視点を持つ		